

令和元年度

事業報告書



南房総市社協マスコットキャラクター「みなみん」

 社会福祉法人南房総市社会福祉協議会

目 次

〇はじめに	3
1 地域福祉の推進	
(1)地域福祉ネットワーク事業	
① 地区社会福祉協議会とささえあいネットワーク南房総の取り組み	7
(2)地域生活支援事業	
① 敬老事業	10
② 福祉団体支援	10
③ 福祉施設の運営(公益事業)	10
④ 法律相談事業	11
⑤ 応急援護資金交付事業	12
⑥ ひとり親家庭支援事業	12
(3)広報啓発事業	
① 広報啓発	13
② 社会福祉大会	13
(4)福祉活動支援事業	
① 福祉教育の推進	15
② 子育て活動支援	16
2 高齢者の在宅生活の支援	
(1)在宅福祉支援事業	
① お達者サロン支援事業	16
② ふれあいランチサービス事業	16
③ 紙おむつ給付事業	17
④ 交通空白地有償運送(旧過疎地有償運送)	18
⑤ 生活援助サービス(みなみん・おたすけサービス)	19
⑥ 福祉車両・福祉機器貸出事業	20
⑦ 日常生活自立支援事業	20
⑧ 生活困窮者自立相談支援事業	21
⑨ 福祉機器リサイクル事業	21
3 在宅生活を支援する資金の貸付	
(1)資金貸付事業	
① 福祉資金貸付事業	22
② 生活福祉資金・老障資金貸付事業	22
4 ボランティア活動の支援	
(1)ボランティア活動支援事業	
① ボランティア連絡協議会の運営	22
② ボランティア・市民センターの整備	23
③ ボランティア養成講座	23

④ 災害ボランティア活動	24
⑤ ボランティア助成事業	24
5 共同募金運動の推進	
(1)共同募金事業	
① 赤い羽根共同募金運動	25
② 歳末たすけあい運動	26
③ 災害義援金募集	27
6 居宅介護の支援	
(1)介護保険事業	
① 居宅介護支援事業	28
② 訪問介護事業	28
(2)障害福祉サービス事業	
①居宅介護事業	28
(3)介護保険外事業	
① 高齢者外出支援事業	29
7 社会福祉協議会の活動基盤整備	
① 会員募集の状況	29
② 基金積立額	29
③ 地域福祉計画・地域福祉活動計画の経過	30
④ 理事会・評議員会の実施状況	31

令和元年度 社会福祉法人南房総市社会福祉協議会事業報告

○はじめに

本会は、地域共生社会の実現に向け、「みんながつながり支え合う みんなにやさしいまちづくり」を目指し、地域住民をはじめ関係機関や福祉関係団体の参加と協働のもと事業を実施した。

今年度は、9月に発生した台風により多くの住民の方々が被災されたことを受け、南房総市と協議の上、本会初めてとなる災害ボランティアセンターを設置し、大会として総力をあげ、被災された世帯への災害支援と生活再建に向けた取り組みを行った。

災害ボランティアセンターでは、地元住民をはじめ、県内外から駆けつけた多くのボランティアの協力のもと、災害支援活動を行った。また、11月からは復興サポートセンターと名称を変更し、災害支援活動に加えて、生活相談等を中心とした生活再建支援活動も行った。

そして大会の被災後の活動は、高齢者をはじめ社会的な孤立や生活困窮支援世帯への対応が更に求められたことから、訪問活動や見守り活動などの安否確認の強化が必要となり、民生委員・児童委員や「ささえあいネットワーク南房総(協議体)」に関わる方々と連携を図り支援に務めた。また特に支援が必要となる世帯へは、生活支援コーディネーターが個別相談を行い、必要に応じて専門部署へつなげられるよう相談体制の強化充実を図った。

また、「互助」「共助」という「つながり」を強化するため、住民相互のささえあい活動を推進する「ささえあいネットワーク南房総(協議体)」の活動支援を強化した。

また平成30年度から、南房総市と一体となって策定にあたっていた「あったかささえあいプラン<愛称>(南房総市地域福祉計画・地域福祉活動計画)」が完成し、より充実した「地域福祉」の推進を目指すための方向性を定めることができた。

令和元年度の主な活動状況を、次のとおり報告する。

○令和元年度の主な事業活動の概要

(1)地域福祉の推進

自分の住む地域の身近な課題を取り上げ協議し、地域のあらゆる人々が福祉の担い手となって、地域の特性を活かしながら課題解決を図る「ささえあいネットワーク南房総(協議体)」の活動を支援した。特に外出や買い物などの移動、高齢者等の見守り、地域のつどい場づくり、地域の担い手確保などの課題については、多様な取り組みが進められ、第1層協議体でその成果について報告した。その中でも「外出や買い物など」の課題については、南房総市包括ケア推進会議での検討課題となった。

地域福祉活動を推進するため、地区社会福祉協議会の活動を支援した。近年、地区社会福祉協議会では、役員の高齢化と役員のなり手不足が課題となっていたことから、今後、より一層「ささえあいネットワーク南房総(協議体)」と連携した地区活動を行うことで、課題解決を図っていくこととした。

広報啓発事業は、9月の台風被害で電気や水道のライフラインが途絶えたことから、ホームページやフェイスブック、ツイッターといった SNS を最大限に活用し、迅速で正確な災害情報や災害支援情報の提供に努めた。特にホームページでは、災害ボランティアセンター運営

に関する特設ページを開設し、市民や県内外のボランティアへ向けた情報の発信に努めた。

相談事業では、通常の無料法律相談に加え、災害により被災された方々に対して、千葉県弁護士会による「生活再建に向けた制度の説明会」や、地元ボランティアによる「こころの相談」を実施し、相談支援の拡充を図った。

(2) 高齢者等の日常生活の支援

高齢者等の閉じこもりを予防し、より身近な地域で集い交流する場である「お達者サロン」の活動を支援した。今年度の災害においては、活動を一時休止することもあったが、サポーターの協力のもと、活動再開に向けた支援を行った。災害後の活動では、近所同士の安否確認の場、困りごとの相談や災害情報を共有する場としても機能し、地域住民の癒しや心の拠り所の場となった。

高齢者や障害者の移動困難者を対象とした「交通空白地有償運送サービス」や「福祉車両貸出事業」を行い、住み慣れた地域で自立した生活が送れるよう安全で安心したサービスの提供に努めた。移動の問題は、公共交通機関の不足がますます進む南房総市において、重要な地域課題であることから、移動手段の確保だけにとらわれず、移動販売や宅配など様々な方法を取り入れ、ささえあいネットワークとつながりをもって支援するよう努めた。

高齢者や障害者に対する、生活上の軽易な家事援助を中心とした有償の生活援助サービス「みなみんおたすけサービス」を実施したが、思った以上に利用者は増えなかった。この点についてはその要因を検証するとともに、引き続き周知を図り利用者と協力者（サポーター）の増員に努めたい。

預金管理や福祉情報を提供し、判断能力の低下した高齢者や障害者の在宅生活を支援する「日常生活自立支援事業」や、生計困難者の自立生活へ向けた支援をする「生活困窮者自立支援事業」を継続して実施した。両事業は、当会の専門性を生かした個別支援事業となり、民生委員・児童委員や各関係機関との地域福祉ネットワークを活用し、利用者や相談者に寄り添いながら自立し安定した生活を送れるよう支援に努めた。

また、「生活困窮者自立支援事業」では、新たに生活困難者の継続的就労に向けた支援を行う「就労準備支援事業」の取り組みを始めた。



(3) 在宅生活を支援する資金の貸付

低所得世帯の経済的な自立を促し、安定した生活が確保できることを目的に資金の貸付を行った。本会独自の生活福祉資金の貸付では、対象者に生活困難な支援世帯（生活困窮者自立相談申込世帯）を加えることにより、緊急時での迅速な貸付に対応することとした。

貸付に当たっては、行政、民生委員・児童委員及び県社協と連携し、世帯の自立に向けた総合的な生活支援サービスにつなげられるよう努めた。

また、新型コロナウイルス感染拡大防止の影響で、休職や休業により収入が減少した世

帯に対しては、県社協からの受託事業である生活福祉資金の特例貸付の迅速な対応に努めた。

(4) ボランティア活動の支援

県内外から駆けつけた災害ボランティア受付、被災者からのニーズ受付・調査及び被災者への災害ボランティア派遣などを行う「災害ボランティアセンター」の運営を行った。主な災害支援は、家屋のブルーシート張り、瓦礫や被災ゴミの撤去や運搬支援などであった。災害ボランティアセンターの運営では、専門の支援団体の皆様を始めとする多くの方々のご協力のもと行われた。

11月からは、「復興サポートセンター」と名称を変更し、災害支援から生活再建に向けた取り組みを行った。具体的には、各地区で弁護士による相談会を実施し、損壊した家屋の修理に伴う修理費や経済的負担軽減のための助成金制度の活用方法などの相談を受け付けた。また、地元臨床心理士のボランティアによる「こころの相談」を実施し、被災された住民の心のケアにも努めた。



今回の災害の特徴は、屋根被害を受けた世帯が多く、ブルーシート展張という専門的な技術が必要であった。このため安全確保の観点から一般のボランティアを派遣することができず、高所専門のボランティア確保も困難であったため、多くのニーズに対して迅速に対応できなかった。また、ニーズの受付範囲の決定や災害ボランティアセンター閉所時期の見極めなどの課題も多く残った。今後この課題を検証し、災害ボランティアセンター運営マニュアルの見直しを行う必要がある。

一方、平時でのボランティアの活動においては、更なる活動の充実を図るため、ボランティアの登録・あっせん及びボランティア保険の加入等を行うとともに、「ボランティアコーディネーター」を配置し、ボランティア活動の運営・調整の充実に努めた。

そして活動されるボランティアの裾野を広げるため、各種ボランティア講座を開催した。特に若年層のボランティアを養成するため「サマーボランティアスクール」「福祉体験出前講座」「福祉作文募集」などを実施し、児童生徒への福祉教育の推進を図った。

(5) 共同募金運動の推進

地域福祉活動の推進を目指し、全国一斉に行われる「共同募金運動」を実施した。9月の災害で被災された世帯も多い中、運動が実施できない地区も一部あったが、各区長をはじめ地域住民の方々のご理解・ご協力のもと活動が展開された。

「歳末たすけあい運動」で寄せられた募金は、地域住民のニーズに合った配分方法を配分委員会で検討し、地域福祉事業に活用するとともに、民生委員・児童委員ご協力のもと要支援者世帯や福祉施設へ配分した。

また、9月の台風で被災された世帯のうち罹災程度が半壊以上の世帯に対しては、赤い羽根共同募金と本会へ寄せられた義援金



を、災害見舞金として交付した。

(6) 居宅介護の支援

本会が実施する居宅介護(訪問介護)の支援は、他の多くの民間の事業所が実施しない「外出支援サービス」、「障害者への居宅介護」、「困難ケースへのサービス」を主体に取り組み、社会福祉法人として地域の介護需要を充足する役割を担ってきたが、介護保険制度の改正により運営が厳しくなり、職員の確保も困難となったこと、また、本会としてはその使命を達成したことから、10月をもって事業を休止し、3月をもって廃止することとした。なお事業所を終了するにあたっては、利用者がサービスを継続して利用できるよう各サービス事業所や関係機関、ケアマネージャーと調整を図り対応に努めた。

(7) 社会福祉協議会の活動基盤整備

社会福祉協議会としての事業を効果的に実施するため、民間法人としての自主性・創造性を発揮し、ボランティアや福祉諸団体と連携・協働して、活動の基盤整備に努めた。そして社会福祉法人として経営組織のガバナンス強化、事業運営の透明性向上及び財務規律の強化に努めた。

今年度は台風や大雨による甚大な災害から、多くの義援金や支援金が寄せられ、災害ボランティア活動支援に充当するとともに、寄付者の意向を踏まえ、被災世帯へ見舞金を交付した。また、災害対策基金を取り崩し、災害支援に充てた。

昨年度から着手していた福祉の行政計画である「地域福祉計画」と本会が中心となり策定する、民間の福祉の活動計画・行動計画でもある「地域福祉活動計画」が策定された。今後は計画に盛り込まれた住民や関係団体の声を実行に移し、市と連携しながら地域福祉を推進していくことが求められる。

これまで、理事会及び評議員会などで本会の事業運営方針や各センターの在り方について検討してきたところであるが、昨年度は運営検討会議を設け、市民が必要としている事業を限られた職員の中でいかに効率良く実行していくか検討し、その方向性が位置付けられた。社会制度や市民ニーズの変化が激しい中で、本会に求められている事を的確に把握し、柔軟かつ迅速に対応できる組織体制を構築していく。

今年度は、「台風による大規模災害」「新型コロナウイルス感染拡大」など、今までに経験したことのない対応が求められた年となった。そのような中で、職員一人ひとりが地域福祉の推進を目的とする社会福祉協議会としての役割を認識し、様々な問題や課題に対応するためのスキル向上を図り、職員全員による情報の共有と連携に努め事業を実施した。

以上のように、令和元年度においても、住民の方々と協働を主体とした活動に併せ、専門性を備えた民間の社会福祉団体として、誰もが住み慣れた場所で安心して暮らすことのできる「福祉のまちづくり」を目指した福祉活動を広く実施した。

1 地域福祉の推進

(1) 地域福祉ネットワーク事業

① 地区社会福祉協議会とささえあいネットワーク南房総の取り組み

助け合い、支え合いの活動を推進するため、市内16の地区社協で交流会や会食会、サロン活動が実施された。また、地区社会福祉協議会連絡会においては、各地区の現状について情報交換を行うとともに、地区社協を運営する上での課題や問題について意見交換を実施した。

高齢者の生活支援体制整備事業としては市内7地区に配置した「ささえあいネットワーク南房総」(協議体)は、4年目を迎え、今年度も生活支援コーディネーターを中心に、地域の福祉課題を協議し、課題を解決するための取り組みが進められた。

★地区社会福祉協議会の活動内容 事業費:2,352,329円

No	地区社協名	活 動 内 容
1	富浦地区社会福祉協議会	学校・民生委員等と合同会議を開催、富浦中学校を見学し学校との連携を図る研修会を開催した。ふれあい交流会、いちご狩りは、中止。
2	八東地区社会福祉協議会	学校・民生委員等と合同会議を開催、富浦中学校を見学し学校との連携を図る研修会を開催した。友愛訪問を実施、見守り活動を行った。いきいきサロンは、中止。
3	岩井地区社会福祉協議会	地区別(4地区)サロン及び地区全体のサロンを開催し交流を通し介護予防の取り組みを行った。高齢者日帰り旅行は中止。各地区の美化活動を実施した。
4	平群地区社会福祉協議会	地区別いきいきサロン(8地区)を開催、高齢者日帰り旅行を実施し介護予防の取り組みを行った。地区全体でフォーラムを開催し、地域住民との交流を図った。
5	滝田地区社会福祉協議会	いきいきサロンで遠足行事を実施し、介護予防の取り組みを行った。ボランティア連協と連携し、こども園で餅つき大会を開催し交流した。独居高齢者友愛訪問を行い、地区の見守り活動を行った。
6	国府地区社会福祉協議会	いきいきサロンで遠足行事を実施し、介護予防の取り組みを行った。ボランティア連協と連携し、こども園で餅つき大会を開催し交流した。独居高齢者友愛訪問を行い、地区の見守り活動を行った。
7	稲都地区社会福祉協議会	いきいきサロンで遠足行事とふれあい会で交流会を実施し、介護予防の取り組みを行った。ボランティア連協と連携しこども園で餅つき大会を開催し交流した。ハザードマップを修正、独居高齢者友愛訪問を実施し、見守り活動を行った。
8	白浜地区社会福祉協議会	地域別高齢者のつどい(2地区)、二世世代交流グラウンドゴルフ、家庭介護教室を開催し、地域住民との交流を図った。広報誌を発行し、地域の方々へ広く活動を周知した。

9	長尾地区社会福祉協議会	地区別高齢者のつどい(2地区)、二世世代交流グラウンドゴルフ、家庭介護教室を開催し、地域住民との交流を図った。視察研修会では八街少年院に行き、若者の犯罪について研修した。
10	千倉地区社会福祉協議会	「高齢者ふれあいの日」を年2回開催し、千倉小やこども園との交流を図った。ほっとらいふ千倉と協働し取り組んでいる「見守り活動」について、活動を実施している先進地社協への研修を行った。
11	丸 地区社会福祉協議会	地区サロンやいきいき交流会を開催し、地区住民の交流を図った。高齢者へ向けた副食づくりを台風のため、災害支援として炊き出しを行った。歳末たすけあいのしもち配布事業の協力や友愛訪問を実施し見守り活動を行った。
12	南 地区社会福祉協議会	いきいき交流会、会食会・音楽会を開催し、地区住民の交流を図った。施設の納涼祭への協力を実施した。歳末たすけあいのしもち配布事業の協力を行った。
13	和田地区社会福祉協議会	台風災害に伴い、各地区区長や民生委員と協力し、安否確認を実施した。高齢者日帰り旅行を開催し閉じこもり予防の取り組みを行った。独居高齢者宅の訪問を行い、見守り活動を実施した。
14	北三原地区社会福祉協議会	ふれあいサロン、高齢者の日帰り旅行を開催し、地域住民同士の交流を図り介護予防の取り組みを行った。花いっぱい事業として環境美化活動を実施した。
15	上三原地区社会福祉協議会	くすの木を拠点に定例サロンや、ふれあい会食会、高齢者日帰り旅行を実施し、地区住民の交流を図り、介護予防の取り組みを行った。
16	南三原地区社会福祉協議会	高齢者日帰り旅行を実施し、介護予防の取り組みを行った。広報誌を発行し、地域の方々へ広く活動を紹介した。

★ささえあいネットワーク南房総(協議体と生活支援コーディネーター)の取り組み(市受託)

事業費:5,200,000円

No	協議体名	活動内容
1	こらぼ♡富浦	○富浦地区高齢者を対象とした買い物支援について協議した ※既存の公共交通であるバスを活用した支援を予定したが、台風災害の影響で中止となった ○高齢者の集い場を増やす取り組みを行った。1か所増となり、今後も地域での拡充を目指す
2	アットホームとみやま	○身近な場所で歩いて行けるサロンが広がり、災害時にサロンを活用した取り組みについて協議した ○救急医療カプセルの必要性和更新について、各団体が連携しすすめていくことを協議した ○サロンを通じて介護予防の取り組みや安否確認を更に実施して、各団体との連携を図っていくこととした

3	よりどころみよし	<ul style="list-style-type: none"> ○サロンやラジオ体操などの活動を通して見守りの拠点を充実させてきたが、更に「朝活」など孤食などの課題に取り組んだ ○三芳地区内の多機関との連携を図り、専門職、住民、分野を超え、顔の見える関係づくりを行った ○今後は、見守りの拠点を増やしていくことを目指す
4	やあばっしえ白浜	<ul style="list-style-type: none"> ○サロン及び出張サロンを実施中だが、「引きこもり」で相談にきていた方がサロンに参加するようになり、身近な居場所として定着してきた ○白浜地区内で身近な場所で相談できる「福祉相談会」を開設 ○今後はサロン運営の協力者を、増やしていく取り組みを目指す
5	ほっとらいふ千倉	<ul style="list-style-type: none"> ○見守り活動として「お元気ですか♥ちくら」の取り組みを実施 更に様々な観点からどのような見守り活動ができるか協議した ○今年度の災害発生時「災害時における見守り活動がどのように活かされたのか」を情報交換会で意見交換を行い、検証した ○今後は、「平常時の見守りと災害時の見守り」について協議を進めていく
6	おたがいさまネットワークまるやま	<ul style="list-style-type: none"> ○救急医療情報カプセルの配布や更新を通して、丸山地区の住民同士が顔と顔の見える関係づくりに取り組んだ この取り組みが、災害時に安否確認や救援物資の配布にも役立った ○今後も住民同士のささえあいについて、更に進めていく
7	わだいすき	<ul style="list-style-type: none"> ○住民の集い場であるサロンを広げる取り組みを行い1か所増となった ○災害等により更に地域の商店が減少していることから、移動販売について情報を収集した ○今後は現在サロンの協力者が少ないので、協力者を増やす取り組みを進める
8	ささえあいネットワーク南房総(本所)	<ul style="list-style-type: none"> ○災害を通じた地域の話し合いや取り組みの情報を収集した ○昨年に引き続き、「移動」について第1層協議体で進め、地域包括ケア推進会議にて更に提案し進めていく予定であったが、災害支援及び新型コロナウイルス感染拡大の影響から、現在は休止 ○今後も引き続き「移動」についてと、災害時の地域の話し合いや取り組みについて協議をすすめていく

【事業評価】

今年度の地区社協活動は、9月10月の台風や大雨による災害、また年度末からコロナウイルス感染拡大の影響もあり活動が実施できない地区も多かった。一方で、活動内容を変更し、被災された方々への炊き出しや訪問活動による安否確認など、昨年までは無かった支援活動が行われた。

地区社会福祉協議会連絡会では、昨年に引き続き、現状の地区社協の課題である委員のなり手不足や後継者問題について協議を重ね、委員の負担軽減とともに地区社協の活性化を図るため、令和3年度の役員改選の年に合わせ地区社協組を見直すこととした。

また、ささえあいネットワーク南房総(協議体)は4年目を迎え、外出支援、買い物支援、見守り活動、介護予防体操の普及や居場所づくなどの課題解決に向けた取り組みが進められた。

日ごろから進めてきたサロン活動や見守り訪問活動は、災害時に住民相互のたすけあいささえあいとしての機能が活かされた。特に集い場であるサロンは、被災された方々にとって閉じこもり

を予防するだけでなく、高齢者の方々など健康状態や安否を確認する見守りの場となり、不安になる気持ちを和らげる心の癒しの場となった。また緊急時の情報をお知らせする場としても機能が発揮された。また見守り訪問活動では、区長や民生委員・児童委員と協力し、支援が必要な方々への支援物資の配布や安否確認が迅速に行われた。

(2) 地域生活支援事業

① 敬老事業

(1) 結婚50周年祝賀事業 事業費:441,803円

結婚50周年をお迎えのご夫婦に敬意と祝意を表し、記念品を贈呈した。

(対象:昭和44年9月1日～昭和45年8月31日の間に結婚され市内にお住いのご夫婦)

開催日	内 容	希望対象ご夫婦
10月	・記念品贈呈(記念写真・夫婦茶碗)	62組

【事業評価】

結婚50周年祝賀事業は、記念品贈呈式を三芳農村環境改善センターにて予定していたが、災害により中止とし、記念品のみとした。

② 福祉団体支援

福祉団体の事務局として市福祉団体(5)、各支部福祉団体(21)の自主運営の促進と団体の事務支援・連絡調整等を行った。

福祉団体名	会議	研修会	事業
南房総市民生児童委員協議会	12回	5回	4回
南房総市老人クラブ連合会	9回	1回	3回
南房総市遺族会	5回	1回	3回
南房総市ひとり親福祉会	1回	1回	6回
南房総市心身障害者(児)福祉会	5回	2回	3回

【事業評価】

各団体の事務局として事務支援及び連絡調整を行いながら、各団体の自主運営が図られるよう支援に努めた。

各団体の会員減少が大きな課題の一つであるので、会員増加に向けた取り組みを協議、検討した。

③ 福祉施設の運営(公益事業) 事業費:6,203,172円

ちくら介護予防センターゆらり(浴場等)の指定管理委託を受け、施設利用者へのサービスの充実を図った。

★ちくら介護予防センターゆらり…延べ利用件数

(単位:件)

	29年度	30年度	令和元年度	前年比較
利用者数	8,578	8,078	9,925	1,847
施設利用件数	432	460	416	△44

【事業評価】

ちくら介護予防センターゆらりの浴場では、衛生管理を徹底し、快適に過ごしていただけるよう努めた。

また、9月の台風被害で長期間停電していたことから、浴場を無料開放し、市民の健康増進に寄与した。よって利用数が大幅に増加している。

④法律相談事業 事業費:130,618円

千葉県司法書士会館山支部に委託し、市内7地区において、法律の無料相談を実施した。

専門性の高い法律の問題を気軽に相談してもらうことにより、地域の方々が安心して暮らせるよう支援した。

★開設実績

内 容 (延べ数)	29 年度	30 年度	令和元年度	前年比較
開設日数	12 日	12 日	12 日	-
相談員数	12 人	12 人	12 人	-
相談件数	61 件	53 件	57 件	4

★内容別件数

	内 容	件 数
1	不動産(土地・境界・家屋・墓地・その他所有物)	11
2	相続(遺言・遺産等)	18
3	金銭(借金・貸した金額の請求・家賃滞納・カード関係)	4
4	離婚・再婚	6
5	家族・親族	4
6	親権・養育費	1
7	事故・事件・犯罪・被害届等	1
8	各種契約関係	4
9	労働・職場関係	1
10	各種保険関係	1
11	成年後見制度関係	1
12	財産関係	3
13	養子縁組	1
14	その他	1
	合 計	57

★開催場所

開催月日	開催場所	担当司法書士相談員
4 月 11 日	白浜コミュニティセンター	山崎勝弘
5 月 9 日	富山ふれあいコミュニティセンター	江澤正志

6月13日	ちくら介護予防センターゆらり	酒井敏行
7月11日	とみうら元気倶楽部	堀川 貢
8月 8日	丸山公民館	鈴木健三
9月12日	三芳保健福祉センター	江澤正志
10月10日	和田地域福祉センターやすらぎ	小林裕明
11月14日	白浜コミュニティセンター	山崎勝弘
12月12日	富山ふれあいコミュニティセンター	鈴木健三
1月 9日	ちくら介護予防センターゆらり	酒井敏行
2月13日	とみうら元気倶楽部	堀川 貢
3月12日	丸山公民館	小林裕明

【事業評価】

今年度から、弁護士に代わって全て司法書士による相談としたが、相談件数も前年とほぼ変わらず、相談にも対応可能であったため、費用対効果が向上した。なお、至急な相談やより専門的な相談を希望された方については、弁護士会や他の専門窓口を案内することで対応した。

⑤応急援護資金交付事業(一部市補助) 事業費 250,000 円

火災、風水害等で被災された世帯に見舞金を交付し、被災者の当面の経済的負担を軽減し、少しでも早い日常生活が送れるよう支援を行った。

★資金交付実績

交付内容	地 区	発生日	見舞金額(円)
全 焼	富 浦	7 月	100,000
半 焼	富 浦	7 月	50,000
全 焼	和 田	3 月	100,000
合 計 3 件			250,000

【事業評価】

今年度の応急援護資金の見舞金は、全て火災によるものであった。これは、台風被害による被災者に対しては、災害救助法が適用され、制度上本事業の対象にはならなかったためである。

なお、台風被害による家屋の全壊、半壊の世帯には、赤い羽根共同募金の災害見舞金及び本会に寄せられた義援金を交付した。

⑥ひとり親家庭支援事業(新規事業) 事業費:565,282 円

新たに民間アパート等に居住しようとするひとり親家庭等に対し、経済的負担軽減を図り自立した生活が送れるよう、入居支度金及び家賃の一部を補助する助成金を交付した。

※入居支度金 30,000 円 家賃助成金上限 10,000 円×12 か月 (年 3 回に分けて給付)

★助成金交付実績

(単位:件)

	30年度	令和元年度	前年比較
交付世帯数	4	6	2
新規交付世帯数	4	2	△2

【事業評価】

この事業は、平成30年度からスタートした事業で2年目を迎え、本年度の新規交付世帯数は2世帯であった。該当となる世帯の情報は、市の担当課から連絡が来ることになっている。市と連携を図り、ひとり親家庭への自立に向けた支援に努めた。

(3) 広報啓発事業

① 広報啓発

(1) 広報紙の発行 事業費:579,611 円

福祉情報の提供と地域福祉をよりご理解いただくため、広報紙「てんだあ」を発行した。紙面作りに当たっては、わかりやすく親しみやすい内容を心掛けた。

★発行部数

広報紙「てんだあ」	発行部数
48号発行(令和元年8月発行)	15,020部
49号発行(令和元年12月発行)	15,030部
50号発行(令和2年4月発行)	15,020部
年間発行部数	45,070部

(2) ホームページの開設と更新 事業費:90,722 円

ホームページには、社会福祉協議会の組織、事業等の紹介をはじめ、住民の方に必要な福祉情報を掲載した。

SNS(ツイッターやフェイスブック)を開設し、リアルタイムで本会の事業予定や福祉情報を提供した。

南房総市社会福祉協議会 ホームページアドレス

URL: <http://www.shakyo-minamiboso.or.jp/>

【事業評価】

広報紙「てんだあ」49号では、災害ボランティアセンターの取り組み報告に併せ、復興サポートセンター開設と日常生活再建に向けての情報を掲載した。

ホームページ・ツイッター・フェイスブックのSNSを活用し、現状の災害についてリアルタイムな情報提供に努めた。ホームページでは災害の特設ページを開設し、災害ボランティアセンターや復興サポートセンターの最新情報を日々更新し、県内外から協力をいただくボランティアや被災者に向け、迅速な情報発信に努めた。

② 社会福祉大会 事業費:671,761 円

地域住民の方々が一堂に会し、市の地域福祉について情報共有するとともに、多年にわたり社会福祉の発展に寄与された方々や台風や大雨災害からの復旧、復興にご協力をいただいた方々の功績を讃え表彰する社会福祉大会を開催した。大会では中学生による福祉作文の発表や募金箱コンクールの表彰、記念講演を実施し、多くの方々に参加していただく大会とした。

開催日	内 容	開催場所	参加者数
2月8日 (土)	<p>○式典 福祉功労者の表彰等</p> <p>★千葉県社会福祉協議会長表彰の伝達(1地区) 優良地区社会福祉協議会 ・平群地区社会福祉協議会</p> <p>★千葉県社会福祉協議会長感謝状の伝達(1名) ・白浜 あすなろ会 会長 木曾 修</p> <p>★千葉県共同募金会長感謝状の伝達(7地区) ・富浦 南無谷区 富山 吉沢区・三芳 大学口区 ・白浜 東横渚区・千倉 谷津区・丸山 石堂区・和田 上区</p> <p>① 南房総市社会福祉協議会長表彰 地域福祉活動功労者(9名) ・関野瑞枝・若林真由美・西原幸男・齋藤節子・本橋きみ江 ・三幣祥子・小柴光子・粕谷俊江・鈴木イネ子 民生委員・児童委員活動功労者(19名) ・吉田芳江・見月仁一・菅沼恭子・平間栄江・早川敏男 ・本橋正仁・岩田弘子・吉田敏子・川名京子・堀江ルミ子 ・鈴木健史・鈴木隆文・鈴木弘子・竹林久子・関 美代子 ・景山洋子・小澤一枝・藤 久雄・高橋秀子 地域福祉活動功労団体(3団体) ・トパローゼ富浦・ファミリー会・北三原植栽ボランティア</p> <p>② 南房総市社会福祉協議会長感謝状 個人(3名)・池田幸雄・宮田好作・加藤喜美 団体(1団体)・演歌塾・丸山</p> <p>③令和元年台風15号・19号、10月25日大雨災害にかかる 支援関係 個人(2名)・的場晟一郎・中村寿男 団体(24団体) ・SL災害ボランティアネットワーク・千葉・千葉レスキューサポートバイク ・(社団)千葉県建設業協会・全建総連千葉土建一般労働組合 ・(株)大栄建設・楠工建・(株)トラスト ・千葉ホラサポート・チーム中濃・BIGUP 大阪・BORDERLESSFIRE ・世界平和統一家庭連合平和ボランティア隊 UPeace ・千葉県弁護士会・(株)戸倉商店・(株)田中建設 ・(株)ファームイン・南総城山温泉里見の湯 ・千葉県生活協同組合連合会 ・ライオンズクラブ国際協会 333C-地区・(株)サカイ ・佐賀県有明海漁業協同組合・社福)ひらいルミナル ・JR 東労働組合・たかの友梨ビューティークリニック</p> <p>④共同募金会南房総市支会募金箱コンクール表彰状 ・金賞2点・銀賞2点・銅賞2点 ・アイデア賞2点・デザイン賞2点</p> <p>○福祉作文の発表(代表作品2名)※当日発表者は1名 ○南房総市社協災害ボランティアセンター・復興サポートセンター活動報告 ○記念講演 講師 一般財団法人 BIGUP 石巻専務理事 兼 BIGUP 大阪代表 松本祐樹 氏 「思いをつなぐボランティアの活動支援」 ～いろんな被災地で活動して～</p>	千倉保健センター	約 192人

【事業評価】

11月に予定していた社会福祉大会は、台風被害の影響で2月に延期した。今年度の表彰では、地域福祉の活動功労に加え、9月の災害時にご協力いただいた方々も対象とした。表彰の他に、災害ボランティアセンター及び復興サポートセンターの報告も行った。

記念講演は、今回の災害で屋根上のブルーシート展張でご協力いただいたボランティア4つの団体の代表としてBIGUP 大阪の松本氏から、南房総市の災害の状況や実際の活動の様子、またボランティア活動への思いなどの講話をいただき、参加いただいた方へ「災害に備えていくことの大切さ」について再認識していただいた。

(4)福祉活動支援事業

①福祉教育の推進

小・中学校、高校の児童生徒に幼いころから思いやりのある優しい心を育ててもらうことを目的に、福祉教育を推進する学校へ助成金を交付した。

また、福祉への理解を深めてもらうために福祉作文を募集した。

★福祉教育推進助成金交付校 事業費：360,000円

小学校名			中学校名		高校名
富浦小学校	富山小学校	三芳小学校	富浦中学校	富山中学校	安房拓心 高校
白浜小学校	千倉小学校	嶺南小学校	三芳中学校	白浜中学校	
			嶺南中学校		
6校			5校		1校

★福祉作文コンクール 事業費：118,620円

市内の小中高校より367点の作文の応募があり、代表作品として2点を社会福祉大会時にて発表した。(今年度小学生代表1名は、都合の為欠席) (敬称略)

	表 題	学校名	学年	氏 名
代表作品	素敵な時間を創りたい	嶺南小学校	6年	加藤和花
	高齢者問題	富山中学校	1年	清水愛香
小学生の部	お年よりのためにできること	富山小学校	5年	渡邊颯天
	みんなが「よく生きる」ために	白浜小学校	4年	木曾朝日
	車いすにのって気づいたこと	千倉小学校	2年	小滝春希
中学生の部	音楽が持つ福祉の力	富浦中学校	2年	猪瀬 愛
	私の祖母	三芳中学校	1年	高橋天音
	高齢者に関する問題とこれからの世界	白浜中学校	2年	関 笑華
	健常者と共同で	嶺南中学校	2年	市原悠仁

【事業評価】

福祉教育推進助成金は、小学校の統廃合と申請されない学校があったことから、昨年に比べ助成金額は減少している。

福祉作文については、賞(順位)をつけることへの是非を検討した結果、今年度は各学校から1作品を選出していただき、代表作品を社会福祉大会で発表するやり方へ変更した。

福祉の担い手を育てる取り組みとしては、体験を通して福祉に関心をもってもらえる機会を作ることにより、福祉教育を推進した。

- ②子育て活動支援（市委託） 事業費：5,049,292 円
子育て環境の充実支援のため、学童保育指導員の派遣を行った。

2 高齢者の在宅生活の支援

(1) 在宅福祉支援事業

- ①お達者サロン支援事業（お達者サロン）（市補助） 事業費：806,504 円

参加される方が身近な場所で交流することで閉じこもりを予防し、利用者相互の交流を通して生きがいを見だし、元気に過ごしていただき介護予防の促進を図ることを目的として、ボランティアが運営するお達者サロンに助成金を交付した。

★サロン開催状況

	29年度	30年度	令和元年度	前年度比較
サロン開催状況	20ヶ所	22ヶ所	26ヶ所	4
利用者参加者数(人)	7,097	7,604	7,259	△345
協力者数(人)	2,578	3,105	3,043	△62

★助成金実績報告 17団体・・・530,000円

【事業評価】

平成29年度から市の補助事業として実施されており、サロンの数は昨年度より4ヶ所増えている。ただし、協力者・参加者数は9月の台風被害などにより、サロンを開催できなかった期間があったため減少している。

助成金はサロン運営の当面の運営資金として3年間を目安に給付しているため、今年度をもって終了する団体もあることから、今後は、ボランティア団体としての助成金の交付を予定している。

介護予防の促進が図られる場として開催しているサロンではあるが、災害時には安否確認や困りごとの相談場所としても機能したことから、住民相互のささえあいを醸成する場になっている。

- ②ふれあいランチサービス事業（無料） 事業費：3,406,193 円

毎月1回、ボランティア、地区社協、民生委員・児童委員等が手作り弁当を、単身高齢者（70歳以上）へ宅配し、地域の方々とのふれあいや健康・生活状況の安否確認等を行うことにより在宅生活を支援した。

★地区別配食数 月平均配食数・・・735食(30年度 791食 比較 56食減)

地区名	延べ配食数
富 浦	493 食
富 山	769 食
三 芳	523 食
白 浜	1,631 食
千 倉	3,444 食
丸 山	884 食
和 田	1,077 食
合 計	8,821 食

協力ボランティア			
調理	1,293 人	月平均	107 人
配食	1,444 人	月平均	120 人

【事業評価】

今年度も民生委員・児童委員をはじめ地域のボランティアの方々のご協力により本事業を実施したが、災害でボランティアが被災されたことや、また施設の調理場が使用できないなど、しばらくの間実施できない期間もあった。一方で、安否確認は必要であるので、電話での確認の他、お弁当の代替えとして救援物資などを配布し訪問活動を行った。

2月からは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、基本的に調理するお弁当の配布を止め、3月からは訪問活動も行わず、電話での安否確認を行うこととした。

ボランティアからの「材料を現金で購入したい」という要望について検討し、希望する丸山地区が実施を始めた。今後、ボランティア団体が自主運営できるよう更に準備を進める。

災害、新型コロナウイルス感染症拡大の影響などを考慮すると、ボランティアが調理するお弁当の配布だけにこだわらず、いろいろな方法で安否確認ができるよう考えていく必要がある。

③ 紙おむつ給付事業

在宅で介護している家庭の負担を軽減するため、年4回紙おむつを無料給付し、在宅介護を支援した。

(1) 紙おむつ給付事業 事業費:2,325,126円

要介護3・4・5、重度障害者、療育手帳、精神障害者保健手帳を所持し、在宅で日常生活のほとんどに介護を必要とされる方を対象に、年4回1回あたり介護度3は2,500円相当、介護度4・5及び障害者は5,000円相当の紙おむつを支給した。

★給付実績

(単位:人数)

区 分	29 年度	30 年度	令和元年度	前年度比較
身 障	137	141	154	13
要介護3	102	117	120	3
要介護4	127	140	145	5
要介護5	131	85	103	18
合 計	497	483	522	39

【事業評価】

今年度から、利用者が自ら希望する紙おむつを選び、市内の身近なお店で受け取りができ

るようにするため、給付方法を給付券方式に変更した。紙おむつ等の種類については、新たに紙パンツも給付品目に加えたことにより、自分にあった品目を幅広く選ぶことができ利用される方にとっては利便性の改善が図られた。

(2) 高齢者介護用品支給事業(市受託) 事業費:3,196,097 円

要介護4・5の高齢者で非課税世帯の方を対象に、年4回、1回あたり25,000円相当の紙おむつ代を助成した。

★給付実績

(3月末給付実人数)

区 分	29 年度	30 年度	令和元年度	前年度比較
要介護4	30	27	30	3
要介護5	13	18	17	△1
合 計	43	45	47	2

【事業評価】

申請者は2件の増となった。本事業は市からの受託であるため、担当課である健康支援課と調整を図り実施した。高齢者介護用品支給事業が対象にならなかった方は、紙おむつ給付事業で支給できるよう申請の案内を行い、ご家族の介護負担軽減を図った。

④ 交通空白地有償運送(旧過疎地有償運送)ボランティア移送サービス事業

事業費: 収入総額:3,168,992 円 支出総額 2,696,933 円 当期残額:472,059 円

会員制の移送サービスとして、高齢者・障害者等の移動困難者に対して、運転協力者(ボランティア)が通院や買い物等の送迎を行い、在宅生活を支援した。

(1) 会員登録数・221 人

(単位:人)

	29 年度	30 年度	令和元年度	前年度比較
利用会員数	125	137	143	6
協力会員数	66	64	78	14

(2) ボランティア移送サービス利用実績・1,955 件

(単位:人)

内 容	29 年度	30 年度	令和元年度	前年度比較
延べ利用者数	1,494	1,803	1,955	152
延べ協力者数	410	404	443	39

★サービス内容

(単位:件)

内 容	29 年度	30 年度	令和元年度	前年度比較
病 院	1,007	1,207	1,342	135
公共機関	141	162	159	△3
買 い 物	303	402	420	18
そ の 他	43	32	34	2
合 計	1,494	1,803	1,955	152

(3) 運転協力者講習会

移送の安全確保や、ボランティアの運転技術を維持するため講習会を開催した。

★講習会開催状況

開催月日	内 容	参加者数
5月16日	移送サービス運転協力者講習会	8人
12月4日	移送サービス運転協力者講習会	5人
合 計		13人

【事業評価】

ボランティア移送サービスの利用者数増加に対応するため、今年度は運転協力者の増員を図った。新規運転者講習は2回実施したが、予定していた運転協力者のフォローアップ講習会は、災害と新型コロナウイルス感染拡大の影響に伴い実施することができなかった。

何よりもこの事業は、安全で安心なサービスの提供が求められるので、運転協力者の高齢化も見られることから、次年度は認知機能検査や運転実技講習を千倉自動車教習所に依頼し実施したい。

⑤ 生活援助サービス事業(みなみんおたすけサービス)

事業費:収入総額:53,000円 支出総額:36,950円 当期残額:112,750円

南房総市にお住まいの方々のささえあい活動を目的とした会員制の生活援助サービスで、高齢者・障害者等に対して、協力者(ボランティア)が日常の家事を手伝い在宅生活を支援するサービスに取り組んだ。

(1) 会員登録数・ 19人

(単位:人数)

	29年度	30年度	令和元年度	前年度比較
利用会員数	5	6	6	—
協力会員数	11	13	13	—

(2) サービス実績

(単位:件数)

内 容	29年度	30年度	令和元年度	前年度比較
話し相手	7	27	23	△4
衣類の洗濯	0	3	3	—
住居の清掃	7	23	15	△8
買物代行	5	29	31	2
食事の支度	2	3	5	2
その他	9	16	8	△8
合 計	30	101	85	△16

【事業評価】

この事業は3年目となるが、利用者は増えていない。利用者が少ない要因は、昨年同様、介護保険サービスではまだ要支援者について「みなし」としてサービス利用が継続されているためかと思われるが、今後も高齢者や障害のある方への日常生活の支援として住民相互の「ささえあいた

すけあい活動」として不可欠な事業であると思われるので、広く周知を図り進めていく。

⑥福祉車両・福祉機器貸出事業

(1)福祉車両の貸出 事業費:1,215,054 円

車椅子仕様車両を無料で貸出し、病院の送迎や外出等の在宅介護を支援した。

事故が発生しないよう、福祉車両整備に努めた。

※運転手は利用される方が手配しガソリン代は実費負担。

★年間貸出実績

(単位:件数)

	29 年度	30 年度	令和元年度	前年度比較
福祉車両貸出件数	752	789	836	47
うち移送サービス件数	544	575	646	71

(2)福祉機器の貸出

車椅子を無料で貸出し、家族の介護負担を軽減することで在宅介護を支援した。

★年間貸出実績

(単位:件数)

福祉機器名	29 年度	30 年度	令和元年度	前年度比較
車椅子	90	111	80	△31
ベッド	5	—	—	—
その他	0	1	2	1
合 計	95	112	82	△30

【事業評価】

福祉車両の貸出は増、福祉機器、車椅子の貸出は大幅に減となった。

福祉車両の貸出は、安全なサービスの提供ができるよう新しい福祉車両を配置した。

福祉機器の貸出は、リサイクルボランティアの協力をいただき、車椅子の修理やメンテナンスをした上で貸出した。介護保険サービスのつなぎ事業として、住民には喜ばれている事業なので、今後は、リサイクルボランティアの増員を図りたい。

⑦日常生活自立支援事業(県社協受託) 事業費:988,200 円

高齢者や障害のある方が住み慣れた地域でその人らしく安心して過ごすために、生活支援員が日常生活における財産の管理や福祉サービスの利用援助をサポートした。

★年間実績

	29 年度	30 年度	令和元年度	前年度比較
新規相談数	8 人	5 人	8 人	3
新規契約数	1 人	5 人	5 人	—
解約数	5 人	3 人	1 人	△2
契約数(3月末)	8 人	11 人	13 人	2
現任支援員数	6 人	9 人	12 人	3

【事業評価】

契約数は年々増えており、生活支援員の増員に努めた。
 本事業は財産管理をお手伝いするという責任のある事業なので、通帳や資料などの管理、チェック体制を重視し本事業を行った。
 令和元年7月、館山市、鴨川市、南房総市及び鋸南町の3市1町で安房地域権利擁護センターを設立した。現在の利用者の判断能力が更に低下した場合には、当該センターへつなぎ、利用者やその家族の支援が途切れることがないように努めた。

⑧生活困窮者自立支援事業(市受託) 事業費:14,248,104円

生活困難者の抱えている課題を分析し、そのニーズを把握、そして、個々のニーズに応じた自立支援計画を作成し、関係機関と連携調整を図りながら就労等各種支援を継続的に行い、自立に向け支援した。

★年間実績

	29年度	30年度	令和元年度	前年度比較
新規相談件数	43件	55件	58件	3
プラン作成件数 (再プラン含む)	35件	27件	27件	—
終結件数	13件	9件	8件	△1

【事業評価】

本事業の新規相談は年々増加している。今年度も支援員が生活課題を抱える方々の家族に寄り添いながら継続的に対応した。また新たに就労準備事業を市から受託し、生活困難者の就労支援の取り組みが始まった。

専門機関と連携し個々のニーズにあった支援体制を築き、社協の役割でもある福祉制度の狭間の方々への支援に努めた。

⑨福祉機器リサイクル事業 事業費:20,772円

各家庭で不要になった車椅子・歩行器等を受け入れ整備し、必要とする方に提供することで資源の有効活用を図った。

★年間譲受・譲渡実績

(単位:件)

福祉機器名	29年度	30年度			令和元年度		
	在庫数	譲受数	譲渡数	在庫数	譲受数	譲渡数	在庫数
車椅子	8 (1台廃棄)	15 (センターから12台)	7	11 (4台廃棄)	6 (内センターから2台)	7	10
歩行器 (シルバーカー)	1	4	1	3	3	2	4
杖	15	0	3	12	0	3 (内処分2)	9

【事業評価】

リサイクルボランティア2名が、車椅子等福祉機器を毎月1回メンテナンス、修理を行った。今年度も車椅子の利用が多かった。9月からは、台風大雨災害により、リサイクルボランティアによる修理等の活動はできなかった。

住民の方々には介護保険サービスのつなぎの支援として大変喜ばれている事業なので、福祉機器の貸出事業と併せて活動できるボランティアを増やし今後も継続し実施する。

3 在宅生活を支援する資金の貸付

(1) 資金貸付事業

生活保護申請者等の低所得者世帯や高齢者世帯、障害者世帯に資金を貸し付け、民生委員・児童委員と連携し自立更正並びに生活の支援を行った。

①福祉資金貸付事業(市社協) 事業費:0円

(単位:円)

	件数	貸付額	償還額	償還未済額
令和元年度貸付	0	0	0	0
徴収不能金	0	0	0	0

	件数	貸付額	償還済額	償還免除額
償還免除	0	0	0	0

【事業評価】

昨年度に引き続き、貸付実績が無かったため、貸付対象者に生活困難な支援世帯を加え、柔軟に対応ができるよう要綱の見直しを行った。

今後とも利用者のニーズにあった制度になるよう、適宜、見直しを実施する。

②生活福祉資金・老障資金貸付事業(県社協) 事業費:281,900円

★生活福祉資金貸付事業・貸付件数4件 貸付額552,000円

【事業評価】

主に、生活困窮者自立相談支援事業の利用者の生活再建のため、緊急小口資金の貸付を行うことにより、自立した生活が送れるよう支援した。

4 ボランティア活動の支援

(1) ボランティア活動支援事業

事業費:2,449,089円

①ボランティア連絡協議会の運営

ボランティア団体の活性化により、地域福祉の向上が見込まれることから、ボランティア連絡

協議会の運営を支援した。また、ボランティア保険加入受付事務を行い、ボランティアの方々が安心して活動できる体制を整えた。

各分野のボランティア養成講座を開催し、担い手となるボランティアの育成・養成に努めた。

②ボランティア・市民センターの整備

ボランティア登録団体数・・74 団体 (団体・個人登録者 延べ 1,238 人)

ボランティアコーディネーターの配置 1 名

③ ボランティア養成講座

ボランティア活動を始めたい方、またボランティア活動に関心を持つ方を対象に各種ボランティアの講座を開催した。

★ボランティア養成講座開催状況

講座名	開催日	内 容	参加者数
サマーボランティアスクール	8 月 21 日	内房地区・朝夷地区の学校ごとに開催 ・福祉講座 ボランティア活動の心構え(講義) 活動をされているボランティアの話 ・福祉ボランティア体験 施設・サロン等でのボランティア体験 ・振り返り及び終了証の授与	23 人
給食ボランティア	1 月 29 日	・食品衛生管理指導 講師:安房健康福祉センター 小泉慎一郎 氏 ※調理実習は、市ボランティア連絡協議会にて企画を予定したが、災害のため中止。 ※検便実施 2 月 12 日～2 月 14 日 検便実施者 178 人	91 人
生活支援担い手養成講座・フォローアップ講座	11 月	災害及び新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止	—
福祉体験	7 月 10 日	・富山小 高齢者擬似体験	129 人
	9 月 24 日	・三芳小 手話体験	
	11 月 20 日	・白浜中 高齢者擬似・車椅子体験	
	1 月 21 日	・富山小 手話体験	
	3 月 10 日	・白浜中 ガイドヘルプ体験中止	
災害ボランティア養成講座	—	実施なし	—
災害ボランティアセンター立上げ訓練	—	実施なし	—

④災害ボランティア活動

(1)災害ボランティアセンターの運営

開設期間 9月14日～10月31日(48日間)

ボランティア活動人数・・・3,380人

ボランティア活動件数・・・818件

ボランティア受付件数・・・個人 1,357人 団体・・・51団体

ニーズ受付件数・・・1,534件 (内訳 高所作業 806件 運搬作業 492件 その他 236件)

ニーズ終了件数・・・1,437件

(2)南房総市社協復興サポートセンターの運営

開設期間 11月1日～3月31日

ボランティア活動人数・・・598人

ボランティア活動件数・・・110件 (内訳 高所作業 98件 倒木1件 その他 11件)

ボランティア受付件数・・・個人 234人 団体・・・106団体

ニーズ受付件数・・・63件 (内訳 高所作業 54件 運搬作業 0件 その他 9件)

ニーズ終了件数・・・157件

★災害等支援に係る経費

	名 称	金 額
収入	災害支援等寄付金	1,585,812円
	災害等準備金(共同募金会からの支援金)	1,675,332円
	災害対策基金取崩収入	3,000,000円
	合計	6,261,144円
支出	災害ボランティアセンター・復興サポートセンター運営経費	2,092,087円
	災害見舞金の助成 ※家屋の全壊・半壊世帯への見舞 (1月～3月まで 397世帯×3,000円)	1,191,000円
	合計	3,283,087円

※今年度の執行残額2,978,057円は、次年度繰越金として引き続き災害支援活動費として活用する。

⑤ボランティア助成事業

ボランティアセンターに登録している団体の活動の活性化を図るため、団体の運営資金の一部を助成した。

★助成金交付実績

件 数	合 計	ボランティア団体(グループ)助成金内容
57団体	1,685,000円	80,000円×1団体 = 80,000円(市ボラ連) 40,000円×5団体 = 200,000円

		30,000 円 × 38 団体 = 1,140,000 円
		29,000 円 × 1 団体 = 29,000 円
		26,000 円 × 1 団体 = 26,000 円
		20,000 円 × 10 団体 = 200,000 円
		10,000 円 × 1 団体 = 10,000 円

★助成金交付内容

市ボランティア連絡協議会協 80,000 円 ボランティア連絡協議会各支部 30,000 円
 会員 10 名未満 20,000 円 10 名以上 30 名未満 30,000 円 30 名以上 40,000 円

【事業評価】

住民相互のささえあい活動の充実を図るため、今年度も様々なボランティア活動の支援と各種養成講座を実施した。

9月からは災害ボランティアセンター、11月からは復興サポートセンターの運営を行ったため、一部のボランティア養成講座で、実施できないものもあった。

災害ボランティアセンター及び復興サポートセンターの運営は、本会に寄せられた義援金(寄付金)及び共同募金会からの災害支援金と併せ、災害対策基金を一部取り崩し災害支援の経費とした。また、寄付者の意向を踏まえ、被災された世帯のうち、罹災程度が半壊以上の世帯に対しては、赤い羽根共同募金の見舞金助成と併せて、本会から独自の見舞金を交付した。

災害支援については、毎年実施してきた災害ボランティアセンターの設置運営訓練や災害ボランティア養成講座の実施により、災害ボランティアセンターを円滑に運営することができた。今後は、その課題について検証し、次の災害に備えておくことが必要である。

また、今回、新たに地元の災害支援ボランティア団体1団体が、立ち会がった。

5 共同募金の推進

(1) 共同募金事業

全国一斉に行われる共同募金運動は、10月1日から12月31日まで実施され区長を始め地域の方々のご協力をいただき活動が展開された。

① 赤い羽根共同募金運動

区の役員をはじめ地域の皆様のご協力により募金運動を実施した。

皆様から寄せられた募金は、社会福祉大会・結婚50周年・福祉機器リサイクル事業・災害ボランティアセンター運営資材整備事業・高齢者、障害者等の福祉車両の整備事業・福祉育成事業・ふれあい交流事業・広報紙の発行など地域福祉を推進するために活用した。

★募金実績

(単位:円)

	29 年度	30 年度	令和元年度	前年度比較
戸別募金	6,383,893	6,304,102	5,948,420	△355,682
法人募金	0	3,000	3,000	0
学校募金	95,013	94,871	118,500	23,629

職域募金	16,139	15,455	22,307	6,852
個人募金	0	1,000	500	△500
その他	85,269	106,761	78,239	△28,522
合計	6,580,314	6,525,189	6,170,966	△354,223

★募金箱コンクール 事業費：19,740 円

市内の小学校1年生～6年生を対象として、共同募金運動に関心を持ち、理解を深めてもらうことを目的に、募金箱コンクールを実施した。99点の応募があり、優秀作品10点を公共施設に設置し、募金箱として活用した。

	低学年の部(1年～3年)			高学年の部(4年～6年)		
	学校名	学年	氏名	学校名	学年	氏名
金賞	嶺南小学校	2年	茅野正宗	白浜小学校	4年	小川ひかり
銀賞	嶺南小学校	3年	水島優輝	三芳小学校	5年	高尾夏弥
銅賞	嶺南小学校	1年	武重海琉	富山小学校	4年	若王子結奈
アイデア賞	三芳小学校	2年	相馬陸人	嶺南小学校	4年	岡田美沙希
デザイン賞	白浜小学校	2年	淵辺和香	富山小学校	6年	鈴木真央

★みなみんふれあい映画上映会の開催 事業費：63,232 円

福祉育成を目的に、マスコットキャラクター「みなみん」とふれあいながら、小さなお子様や障害のある方々、またそのご家族で参加していただける映画の上映会を開催する予定であったが、災害及び新型コロナウイルス感染症拡大の影響から中止となった。

② 歳末たすけあい運動

12月1日から31日まで行われる運動では、赤い羽根募金同様、多くの皆様のご協力をいただいた。寄せられた募金は、スローガンである「あったかいお正月」を地域で迎えられるよう、民生委員を通じて市内の支援を必要としている方々へお届けした。

★募金実績

(単位：円)

	29年度	30年度	令和元年度	前年度比較
戸別募金	6,401,240	6,299,002	6,094,570	△204,432
街頭募金	98,875	77,647	0	△77,647
法人募金	10,000	20,000	20,000	0
イベント募金	0	0	3,006	3,006
個人募金	30,791	20,500	20,500	0
その他	10,014	8,012	14	△7,998
合計	6,550,920	6,425,161	6,138,090	△287,071

★歳末たすけあい配分一覧

(単位:世帯)

分世帯(者)	29年度	30年度	令和元年度	前年度比較
生活困難な支援世帯	24	21	27	6
独居高齢者	228	222	215	△7
高齢者のみ世帯	39	30	20	△10
寝たきり高齢者	22	17	16	△1
寝たきり障害者	9	10	9	△1
重度心身障害者(児)	148	136	124	△12
母子家庭	51	54	37	△17
父子家庭	3	2	2	0
児童養護施設	1	1	1	0
特別養護老人ホーム	7	7	7	0
老人保健施設	3	3	3	0
知的(精神)障害者施設	3	3	3	0
グループホーム	6	6	6	0
小規模多機能施設	3	3	3	0
小規模特別養護老人ホーム	1	1	1	0
グループホーム(障害者施設)	5	7	6	△1
合計	553	523	480	△43
	5,940,000円	5,660,000円	5,220,000円	△440,000円

③ 災害義援金募集 義援金総額 64,430円

【事業評価】

災害により被災された世帯も多い中、共同募金運動の募金活動を実施するかまたは中止にするのか判断が厳しいところではあったが、配分委員会で協議し例年通り実施することとした。

被災状況により募金活動ができない地区もあったため、全体の募金額は減っているものの、相対的には多くの世帯のご協力をいただいた状況である。

台風被害によって被災された世帯への見舞金は、申請書のとりまとめを南房総市に協力してもらった。共同募金会からの見舞金支給に合わせて、当会からの災害義援金も上乘せして交付し、被災された方々への支援に努めた。また、例年実施している歳末たすけあい募金の見舞金は、民生委員・児童委員のご協力のもとお届けすることができた。

6 居宅介護の支援

(1) 介護保険事業

① 居宅介護支援事業（ケアマネージャー1名）

事業費：収入総額：2,919,280 円 支出総額：194,111 円 当期残額：4,556,254 円

介護保険法に基づき、要介護・要支援認定者にケアマネージャーによるケアプラン作成や、介護保険施設、医療機関との連絡調整、また介護に関する相談受付支援などを行い、在宅介護を支援した。

★ケアプラン作成

(単位：件)

	29 年度	30 年度	令和元年度	前年度比較
要 介 護	342	313	193	△120
介護予防	83	122	59	△63
合 計	425	435	252	△183

② 訪問介護事業（ホームヘルパー4名）(常勤1名非常勤3名)

事業費：収入総額：3,075,714 円 支出総額：5,322,308 円 当期残額：29,046,389 円

介護保険法に基づき、要介護者へホームヘルパーによる訪問介護を提供し、在宅生活の支援をした。

★高齢者の訪問介護

	29 年度	30 年度	令和元年度	前年度比較	
利用者数(人)	386	383	191	△192	
訪問 介護 内訳 (件)	身体介護	787	496	168	△328
	生活援助	807	758	200	△558
	身体生活	0	13	0	△13
	乗降介助	1,210	767	414	△353
	介護予防(人)	110	99	42	△57
	合 計	2,914	2,133	824	△1,309

(2) 障害福祉サービス事業

① 居宅介護支援事業

障害者総合支援法に基づき、ホームヘルパーによる訪問介護を提供し、在宅生活を支援した。

★障害者の居宅介護

	29 年度	30 年度	令和元年度	前年度比較
利用者数(人)	50	47	19	△28
訪問回数(回)	319	345	82	△263

(3) 介護保険外事業

① 高齢者外出支援事業(一部市補助)(登録者数56人)

単身高齢者及び高齢者世帯、介護保険該当者をホームヘルパーが通院や買い物等の支援を行った。

★外出支援件数

		29年度	30年度	令和元年度	前年度比較
自立	利用者数(人)	308	270	121	△149
	利用回数(回)	540	470	204	△266
要介護	利用者数(人)	307	281	155	△126
	利用回数(回)	651	441	231	△210
合計	利用者数(人)	615	551	276	△275
	利用回数(回)	1,191	911	435	△476

【事業評価】

居宅介護の支援については、今年度をもって終了した。利用者が継続してサービスを利用できるようにするため、他のサービス事業所や関係機関、ケアマネージャーとの調整を図った。

7 社会福祉協議会の活動基盤整備

① 会員募集の加入状況

(単位:件)

	29年度	30年度	令和元年度	前年度比較
一般会員 (市内全世帯)	12,999	12,801	12,597	△204
賛助会員 (活動に賛同される個人など)	464	454	421	△33
特別・施設団体会員 (福祉施設・団体など)	142	140	80	△60

② 福祉基金積立額

基金の種類	積立額
福祉振興基金	94,761,001 円
災害対策基金	8,833,370 円
ボランティア基金	1,503,265 円
合計	105,097,636 円

③地域福祉計画・地域福祉活動計画策定の経過

NO	日にち	内 容	場 所
1	30.9.10	地域福祉計画・活動計画策定支援業者契約	三芳分庁舎
2	30.10.9	第1回作業部会	市役所本庁
3	30.10.18	第1回策定委員会	三芳保健福祉センター
4	30.11.19	市民アンケート	南房総市全域
5	31.2.1	第2回作業部会	市役所本庁
6	31.3.4	住みよい地域づくりを考える会意見交換会	富山ふれあいコミュニティセンター
7	31.3.8	住みよい地域づくりを考える会意見交換会	千倉保健センター
8	31.3.8	住みよい地域づくりを考える会意見交換会	丸山公民館
9	31.3.11	住みよい地域づくりを考える会意見交換会	白浜コミュニティセンター
10	31.3.11	住みよい地域づくりを考える会意見交換会	和田コミュニティセンター
11	31.3.18	住みよい地域づくりを考える会意見交換会	三芳保健福祉センター
12	31.3.18	住みよい地域づくりを考える会意見交換会	富浦元気倶楽部
13	31.3.20	老人クラブ当事者団体ヒアリング	千倉保健センター
14	31.3.22	団体意見交換会	丸山公民館
15	31.4.19	身障福祉会当事者団体ヒアリング	富山魚赤
16	R1.7.10	第3回作業部会	市役所本庁
17	1.7.30	第2回策定委員会	三芳農村環境改善センター
18	1.12.26	第4回作業部会	市役所本庁
19	2.1.17	第3回策定委員会	千倉保健センター
20	2.1.27～	市民意見募集(パブリックコメント)の実施	南房総市全域
21	2.2.19	第5回作業部会	市役所本庁
22	2.2.27	第4回策定委員会	三芳保健福祉センター
23	2.3.2	地域福祉計画・活動計画答申書の提出	市役所本庁

理事会議案一覧 〈平成31年度/令和元年度〉

番号	会議回数	開催年月日	出席者数	日程	番号			件名	審議結果
					議案	報告	その他		
1	1	1.5.23	理事 10 監事 2	1	1			平成30年度事業報告並びに決算の承認について	承認
2				2			令和元年度補正予算（第1号）について	可決	
3				3			評議員選任候補者の選任について	可決	
4				4			評議員選任・解任委員の選任について	可決	
5				5			評議員会の開催について	可決	
6	2	1.6.14	理事 10 監事 2	1	6			会長の選任について	可決
7				2	7		副会長の選任について	可決	
8				3	8		評議員選任・解任委員の選任について	可決	
9	3	1.11.22	理事 9 監事 2	1	9			社会福祉協議会福祉功労被表彰者の決定について	可決
10				2	10			専決処分の承認を求めることについて ・令和元年度補正予算（第2号）について	可決
11				3	11			専決処分の承認を求めることについて ・福祉資金貸付規程の一部を改正する規程の制定について	可決
12				4	12			評議員会の開催について	可決
13				5		1		事業（職務）の執行状況について ・令和元年度事業活動の執行状況について ・災害対応について ・次年度の体制等について	-
14				6			1	役員の報酬の改正について	-
15	4	2.1.16	理事 10 監事 2	1	13			社会福祉協議会福祉功労被表彰者の決定について（追加分）	可決
16				2	14			職員の給与に関する規則の一部を改正する規則の制定について	可決
17				3	15			評議員選任候補者の選任について	可決
18				4	16			訪問介護事業並びに居宅介護支援事業の廃止について	可決
19				5	17			令和元年度台風災害に関する寄附金の取扱いについて	可決
20				6		2		業務（職務）の執行状況について ・地域福祉計画 域福祉活動計画の策定経過について ・次年度の体制について	-

21	5	2.3.17	理事 11 監事 2	1	18		社会福祉協議会福祉功労被表彰者の決定について（再追加分）	可決
22				2	19		専決処分の承認を求めることについて ・令和元年度補正予算（第3号）について	可決
23				3	20		令和2年度事業計画について	可決
24				4	21		令和2年度予算について	可決
25				5	22		定款の一部を改正する定款の制定について	可決
26				6	23		職員就業規則の一部を改正する規則の制定について	可決
27				7	24		職員の育児休業等に関する規則の一部を改正する規則の制定について	可決
28				8	25		評議員会の招集について	可決
29				9		3	職務（業務）の執行状況について ・地域福祉活動計画について ・令和2年度事務局組織体制について	-

評議員会議案一覧 〈平成31年度/令和元年度〉

番号	会議回数	開催年月日	出席者数	日程	番号			件名	審議結果
					議案	報告	その他		
1	1	1.6.14	評議員 17 理事 1 監事 2	1	1			平成30年度事業報告並びに決算の承認について	可決
2				2			令和元年度補正予算(第1号)について	可決	
3				3			理事の選任について	可決	
4				4			監事の選任について	可決	
5	書面議決	1.8.7	評議員 22					定款の一部を改正する定款の制定について (※平成30年度第2回議案第4号議件分)	可決
6	2	1.12.13	評議員 13 理事 1 監事 0	1	5			専決処分の承認を求めることについて ・令和元年度補正予算(第2号)について	可決
7				2	6			理事の選任について	可決
8				3	7			役員等の報酬及び費用弁償に関する規程の一部を改正する規程の制定について	可決
9				4		1		事業(職務)の執行状況について ・福祉功労被表彰者の決定について ・令和元年度事業活動の執行状況について ・災害対応について	—
10	3 (書面議決)	2.3.18	評議員 22	1	8			専決処分の承認を求めることについて ・令和元年度補正予算(第3号)について	可決
11				2	9			令和2年度事業計画について	可決
12				3	10			令和2年度予算について	可決
13				4	11			定款の一部を改正する定款の制定について	可決
14				5		1		報告事項について ・社会福祉協議会福祉功労被表彰者の決定について(再追加分) ・地域福祉活動計画について ・令和2年度事務局組織体制について	承認

評議員選任・解任委員会議案一覧 〈平成31年度/令和元年度〉

番号	会議回数	開催年月日	出席者数	日程	番号			件名	審議結果
					議案	報告	その他		
1	1	1.5.23	5	1	1			評議員の選任について	可決
2	2	2.2.12	5	1	2			評議員の選任について	可決

令和元年度事業報告には、社会福祉法第45条の27第2項に規定する附属明細書については、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

令和2年5月

社会福祉法人南房総市社会福祉協議会

